

Q. 4年間の町政執行をどう評価するか！！
約束した5つの項目はおおむね達成。



樋坂 里子 議員

町政4年間の評価は

質問 今期4年間の町政をどう評価するか。

町長 4年間の町政運営の評価は、本来町民のみなさんや議員の方々に評価していただくのが本筋であろうが、平成19年当時、町民の皆様にご約束した5つの項目について自分なりに報告させていただく。

1.「健康づくりと社会福祉の充実」
生活習慣病の予防や疾病の早期発見に取り組み30代女性の乳がん検診や予防接種の助成、町民健康づくり事業など

を行った。また、社会福祉関連では、「子ども元氣高齢者いきいき応援プログラム」に基づき各種取り組みの実践、乳幼児等医療費助成事業の拡大、「子ども夢基金（2億円）」を創設した。

2.「力強い農業と商工業の再生」

農産物ブランド化推進組織の立ち上げや町内全域において基盤整備事業を推進。農業者の高齢化と担い手不足を解消すべく農業振興公社の立ち上げに着手した。また、中小企業に対する融資制度の条件緩和や利子の全額補給、割り増し商品券の助成を行った。

3.「みんながいつでも学べる教育環境」

4 小学校を統合し新生新十津川小学校を開校、小、中学校校舎の耐震化と大規模改修の実施、町単独費による教科専任教師の配置、統合後の廃校校舎の活用を進めた。

4.「豊かな自然を守り生活環境の向上」

豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため「環境基本条例」を制定。綿製品、廃食用油の回収・リサイクル活動、青葉公営住宅の建設や除雪排雪の

充実を図るべく除雪機械の更新を行った。

5.「行財政改革を進め、住民との協働」

4年間で、町債（借金）を28億4千万円減少させ、基金（貯金）は1億1千万円増やした。財政的には、空知管内でも健全な団体となっている。

町の最高規範、行動規範となる「まちづくり基本条例」を制定、住民との協働によるまちづくりの指針とする。

今後も行政全般にわたる批判は真摯に受け止め、住民とともに住みよいまち、豊かなまちづくりに専念する。

子ども手当をどう考えるか

質問 子ども手当についての町長の考えは。

町長 法案が成立しなければ4月から従前の「児童手当」が復活することになり、全国の自治体では大きな混乱が予想される。私は、子ども手当は継続すべきとの考えである。ただし、子ども手当支給にあたり、その一部を地方に

負担を求める考えには賛成できない。子育てを社会全体で支えるとの理念を貫く強い意志を国は示して欲しい。未来を担う子どもたちが安心して暮らし、健やかに成長できる社会の実現に貢献できる「子ども手当」であって欲しいと願う。



青田 良一 議員

英語教育の充実を

質問 4月から始まる小学校での英語教育を充実させるべく、小学校教員に「小学校英語指導者資格」を取得させるなど本町独自の取り組みを発想しては。